



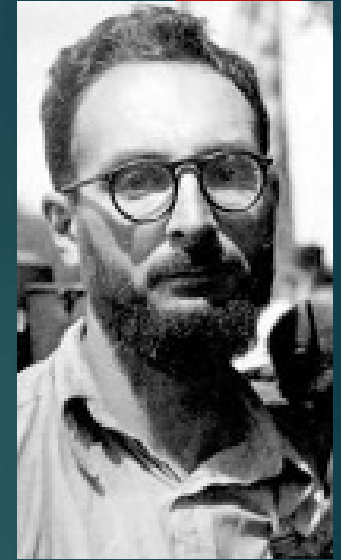
# 部族民通信 人類学 Youtube講座

2022年10月~23年7月期

# 部族民通信 人類学講座 レヴィストロースを読む

構造人類学  
Anthropologie Structurale

渡来部須万男  
ホームページ [WWW.tribesman.net](http://WWW.tribesman.net)



Claude Lévi-Strauss  
1909~2009  
(Bororo族調査時、1936年)

**人類学講座** 1 悲しき熱帯61頁から マルクス主義、精神分析、現象論の批判 (10月12日)

2 野生の思考第9章 サルトル批判 全4回  
(10月19日～11月9日)

3 親族の基本構造 近親婚禁止、文化の創生 財の交換継承  
Murngin族の婚姻形態 (11月16日から4回を予)

番外 女狩人Univoque/Equivoque金魚鉢法則 (2023年1月)


4 構造人類学の紹介 (2023年2月から) 4-1 序制度の由来  
(14日) -2神話の構造人の由来OEdipe神話 (28日) Pueblo族  
神話 (3月15、20日)

4-3 出来事の由来 上 Nambikwara族 (4月7日)

下 Pueblo族 (4月20日)

5 構造人類学のまとめ (4月末予)

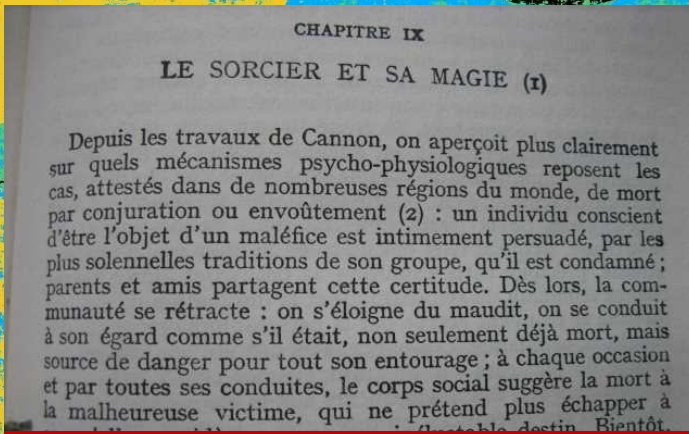




レヴィストロース著  
構造人類学Anthropologie  
Structurale 出来事の由来  
下  
少年魔術師の弁明

魔術師は森羅に君臨し  
普遍を操る

レヴィストロース著  
構造人類学 Anthropologie Structurale  
魔術師と魔術 Le Sorcier et sa Magie



本書 Anthropologie Structurale  
魔術師と魔術 章題の頁  
Cannonが指摘して以来、人類学  
では人の死（災難）に呪いが関  
わる事（信心）関心を抱いていた...  
Voodoo Deth (1942年) = 前出

本投稿の内容

Zuni族（北米西部に居住する先住民）の少女は突然の失神に襲われた。直前に少女の手を掴んだ少年が「魔術」懸けたと訴えられ、法廷に出された。

弁明も虚しく少年の有罪は確定する、その直前に戦術を替えた。

魔術師であると宣言した。少年の命はいかんや。

（C.V.Stevenson女史のアメリカ民族学会誌への報告に基づく、1905年）

出来事の由来 発生は単発か、宇宙森羅の流れか

構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 4

魔術の遣い手は当時（20世紀初頭）において有罪となれば死刑。このままでは死刑 « peine capitale » を宣告されてしまう。焦った青年は作戦を替えた、私は魔術師と認めた。

« L'accusé changea de tactique et improvisa un long récit dans lequel il expliquait en quelles circonstances il avait été initié à la sorcellerie et avait reçu de ses maîtres deux produits dont l'un rendait les filles folles et l'autre les guérissait »

かなり長い時間、自身を語った。その中でどのような状況で魔術師の訓練を受けたか、魔術指南の教師らから何を譲り受けたか、対をなし一つは娘を夢中にさせ、もう一つは冷静に戻す道具（produits製造物とある、薬物と思える）であった。

出来事の由来 発生は単発か、宇宙森羅の流れか

構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 4

« le garçon en a inventé une autre ; tous ses parents, ses ancêtres étaient des sorciers »少年はさらなる話まで作り上げた（でっち上げ）、彼の家族全員、先祖すべてが魔術師だと言いはった。判事らは魔術能力を検分するために見張りをつけ彼を家に戻した。帰宅途上に2本の根っこを掘り上げ、携えた。そのうち一本を採食すると夜通しトランス状態に陥って、明け方に別の根を採取して平常に戻った。その他、魔術師として発揮できる能力は :

猫に変身、犠牲者の口にサボテン針を一杯にして殺す術——赤ちゃん二人、娘っ子3人、2の少年——を犠牲にしたと。全ては魔法の羽の魔力の賜物だと証言した。

魔法の羽が両刃の刃に働いた。判事たちはようやく魔術の実体に迫ったのだ。これまでは行為としての「術」、あるいは調合したドラッグ。それらに効能を与える筈のモノが具体例として見えてきた。ようやく「尻尾」を掴んだ。その「羽」を出せと青年に迫る。

「実はわたしはもう魔術が使えなくなった」「家の荒壁に埋めた」「一人では取り出せない」「詳しい位置は思い出せない、なにせ2年前の話だ」などと言いつつを重ねた(慌てた状況がうかがえる)。

陳述通りに居宅の壁を幾人がかりで崩しても羽は出てこない：

« il finit par s'attaquer à une autre paroi, où, après une heure de travail, une vieille plume apparut dans le torchis. Il s'en saisit avidement, et la présenta à ses persécuteurs comme l'instrument magique dont il avait parlé : on lui fit expliquer en détail le mécanisme de son emploi »

彼自身が別側の壁を一人で壊し始めて一時間の経過のあと荒土に埋もれた古ぼけた羽を見つけ出した。握りしめ告発者らに、これぞ私が言っていた魔法の羽だと見せつけた。

用い方を微に入り細に渡り話し出す、人々は彼の語るままに任せた

魔術を遣ったと人々は決めつけた  
否認した後、罪状を認める少年、  
魔術の仕組みを詳らかに陳述する、

魔術の大本「魔法の羽」を明かした  
別の場所で一人で少年が「発見した」

« Il dut répéter toute son histoire, qu'il enrichit d'un grand nombre de détails, et termina par une péroraison pathétique où il pleurait la perte de son pouvoir surnaturel. Ainsi rassurés ses auditeurs consentirent à le libérer » page 190

経験を洗いざらい述べることになった。付け足しなども盛りだくさんに混ぜ込んで最後に「もはや魔力をもっていない」泣き声で訴え、供述を終えた。傍聴者全員が彼の釈放に同意した。

有罪を認め、晴れて無罪となった

レヴィストロースの註釈；

« On voit d'abord que poursuivi pour sorcellerie et risquant de ce fait, la peine capitale, l'accusé ne gagne pas l'acquiescement en se disculpant, mais en revendiquant son prétendu crime. Bien plus il améliore sa cause en présentant des versions successives dont chacune est plus riche, plus nourrie de détails que la précédente »

魔術師なる汚名を着せられ死刑 « peine capitale » の畏れは帯びるも、被告は（戦略変更の後）一度たりとも無罪放免を求めている。己の罪状をことさら認めるのみ、さらに様々な事象を組み上げ、それらは証言のたびにより細かく、豊かに膨れ上がる

« La confession, enforcé par la participation, la complicité même, des juges, transforme l'accusé, de coupable en collaborateur de l'accusation.

Grâce à lui, la sorcellerie et les idées qui s'y rattachent, échappent à leurs modes pénibles d'existence dans la conscience comme ensemble diffus de sentiments et de représentations mal formulés pour s'incarner en être d'expérience.

L'accusé, préservé comme témoin, apporte au groupe une satisfaction de vérité infiniment plus dense, plus riche que la satisfaction de justice qu'eut procuré son exécution »

陳述は、仲間かとも見える判事の姿勢も奏効し罪人から同調者へ、被告の立場に変えた。

魔術は彼らにはどのような存在だったろうか。感じられる、あるいは表現もできる範囲ながら、頭の中で実は整理されておらず、なにやらが様々に枝分かれし、それはかくあると確信できかい、そんなようなものだ。

彼のおかげで曖昧から抜け出て、魔術とそれが包含する思想のすべてが確固とした存在として生まれたのだ。

貴重な証言者として被告は、真理を見極めたと集団に喜びを与えた。彼を処刑してしまう「正義」と比べ無罪とするほうが、より豊かな満足が得てくれる。

## 他の原理（前のスライド）とは

少女失神も、少年手掴みも、特異な出来事。2の重なりは偶然とする原理。しかしこれを先住民は採り得ない、

« Le choix n'est pas entre ce système est un autre, mais entre le système magique et pas de système du tout, c'est-à-dire le désarroi. L'adolescent est parvenu à se transformer, de menace pour la sécurité physique de son groupe, en garant de sa cohérence mentale » Page 191.

彼らにとって魔術か、他のなにかのシステムの選択はあり得ない。魔術を選ばなければ、いかなる原理もない混沌を選ぶしか無い、それは混乱だ。この青年は彼の社会を実際に脅かす存在から、精神の繋がり保証人に成り上がった。

出来事の由来 発生は単発か、宇宙森羅の流れか  
 構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 3

出来事の由来の説明 1自然、特異 2超自然、普遍

参考スライド：前出、  
 Nambikwara 族長の災難で作成

出来事	原因	起動因	効果	哲学
指導者が嵐に巻き込まれた	自然現象 突発	森羅 特異	乗っ取り (?)	近代科学 属性分解 物を分解して機能を見極める
魔術師が仕組んだ	事象の統合	超自然 森羅普遍を呼び寄せ特異を結びつける		具体科学（野生の思考） 物と物を結びつける

## Azande族の男 なぜ脳膜炎で死んだ

参考スライド：野生の思考から、  
Azende族男はなぜ死んだ = 前出



Azande族スーダンなどに居住Wikiより

gigantesque variation sur le theme du  
principe de causalite 「因果律の上に君臨する  
この巨魁な変異の思考、魔術による」と

野牛に  
突かれ  
た

崩れた  
屋根の  
下敷き

打ち所  
が悪く  
脳膜炎

呪い

死



これら3の事故は一つの原因に支配  
されている  
偶然の重なりを結びつけられるのは  
単一のCausalite 因果律のみであ  
る。呪いである

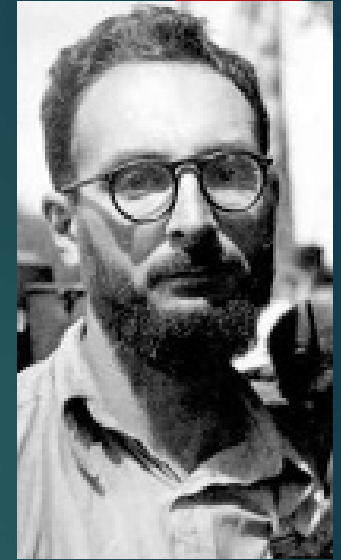
レヴィストロース著  
構造人類学Anthropologie  
Structurale 出来事の由来  
下  
少年魔術師の弁明 の了

魔術師とは森羅に君臨  
し普遍を操る

# 部族民通信 人類学講座 レヴィストロースを読む

構造人類学  
Anthropologie Structurale

渡来部須万男  
ホームページ [WWW.tribesman.net](http://WWW.tribesman.net)



Claude Lévi-Strauss  
1909~2009  
(Bororo族調査時、1936年)



# 部族民通信 人類学 Youtube講座

2022年10月~23年7月期